

大洲市地域おこし協力隊便り VOL.4 (R5.9)



大洲市地域おこし協力隊

EHIME

中村 光一

04 03 02 01

退任後のビジョン

今後やっていきたいこと

2年間の活動の振り返り

どんな想いで大洲協力隊になったのか

協力隊2年目 1から2になった年



01

どんな想いで地域おこし協力隊になったのか

幼いころから母の趣味のガーデニングに触れていたこともあり、植物を使って人の生活を豊かにできる仕事がしたいとの想いで、高校、大学に進学し、京都の造園会社に就職。働き続けるライフスタイルに疑問を持ち、中国での作庭をきっかけに退職を決意しました。里山をベースにした持続可能なデザイン、パーマカルチャーという考え方に興味を持ち、半年間海外でライフスタイルやパーマカルチャーについて学びました。帰国後は有機農家の下で働いていました。

植物を使って人を豊かにすることを軸に、造園業や農業など『業』に窮屈さを感じ、今までの経験を生かすことができないかと調べるうちに地域おこし協力隊の存在を知りました。そして、全国の地域おこし協力隊募集の中から、自分が活かせる場所はないかと探し、大洲市にたどり着きました。

何も接点がなかった大洲市を選んだ理由は、臥龍山荘やうかい、いもたき、肱川あらしなど面白いものがたくさんあり、キャスルステイなど新しいものを取り入れている地域と感じたためです。

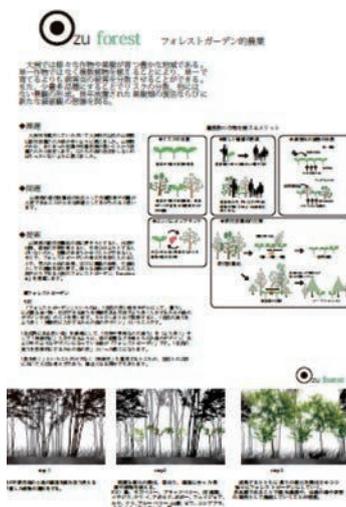


中村 光一(1992.8.15)

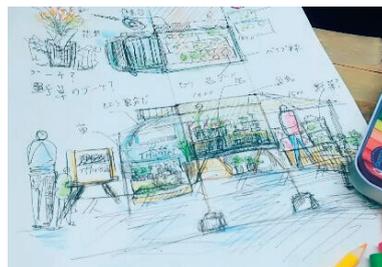
- ・出身 東京都足立区 ※東京生まれの東京育ち
- ・学歴 都立農産高等学校 園芸デザイン科
※高校時代から植物に関わる仕事に興味を持ち始める
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科
- ・職歴等 造園業(京都府)
バックパッカー(ニュージーランド、インド、タイ)
※海外のパーマカルチャーを学ぶ
有機農業(千葉県)

〈2021年9月から大洲市の地域おこし協力隊として着任〉

01



02



01

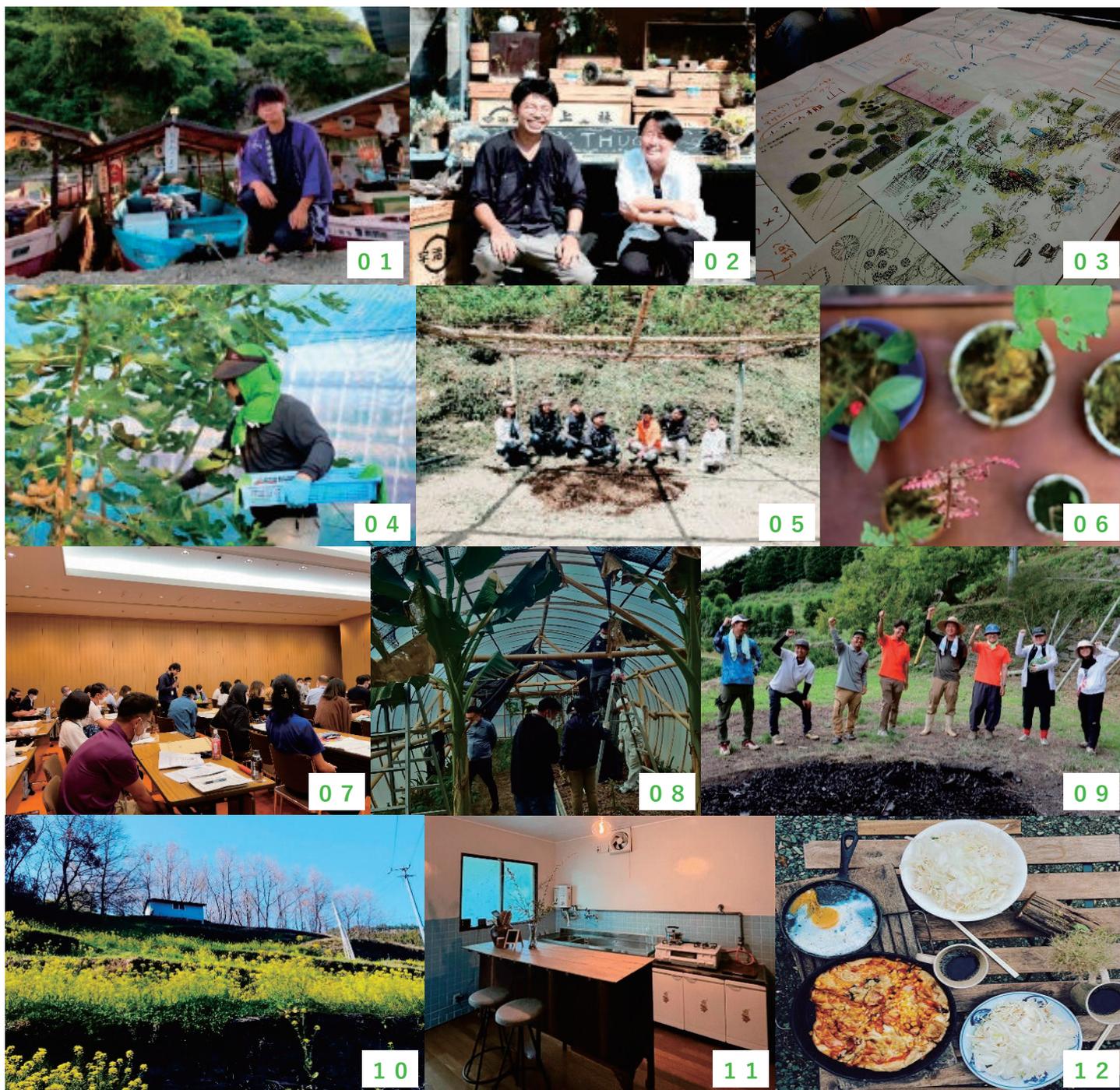
協力隊募集の視察で大洲を訪れたその日に提案書を作ったほど魅力的でした

02

農に関わっていれば良いという自由度が高いミッションだったため、思いついたら提案書を作るようにしていました

02

2年間の活動の振り返り



01
おおずのうかいの半年間の研修の末、無事デビューしました

03
造園の技術を生かしたデザインや企画をしました

05
竹を資源として何かできないかを考えました

07
地域おこし協力隊の研修にも参加しました

09
青年農業者協議会で、竹を使ったプロジェクト『BAMBOO』
を立ち上げました

11
柳沢地域の田処にある住居をDIYしています

02
自家用車の軽トラックを移動販売できるようにしました

04
多品目での農業研修をしました

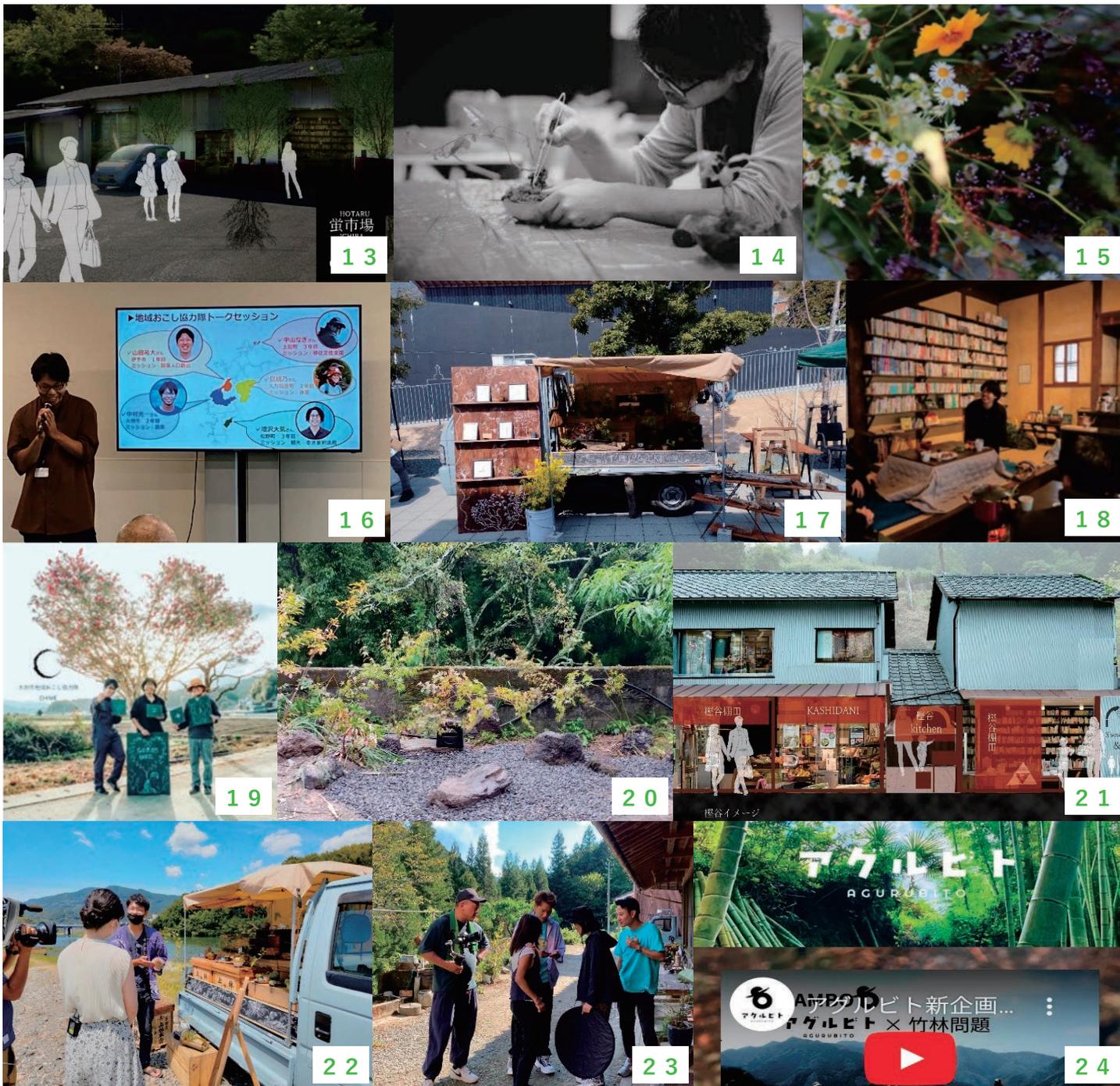
06
植物を使って生活を豊かにすることを目標に起業しました

08
視察研修にも参加しました

10
柳沢地域の田処を拠点として、任期終了後も定住できるように活動しています

12
ピザ窯を作りました
薪割りやピザづくりも価値として創出できるように考えています

2年間の活動の振り返り



13
思いついたら提案書を作りました
1年目は週1回は提案書を作っていました

15
野の花を使ったアレンジメントや花束などで価値創出を図りました

17
移動販売できるようにした軽トラックでマルシェや軽トラ市に参加しました

19
五郎の境木（ボケ）を使ってブランコやハートの木を作りました

21
グリーンツーリズムの相談を受けてデザインしてみました

23
中国とイタリアのTV局に取材してもらいました

14
盆栽やコケ玉のワークショップの講師をしました

16
移住フェアに参加して大洲をPRしました

18
内子などにもワークショップの講師として呼ばれました

20
定住予定地の庭をデザインをして作庭しています

22
テレビ愛媛に出演させていただきました

24
アグルビトのBAMBOOプロジェクトのサイトや動画などを作成した

※このほかにも様々な行事などに参加しています

今後やっていきたいこと



そんな想いと私がずっとやっていきたいと思っている植物を使って生活を豊かにすること、また妻の影響もありネットがあれば世界と繋がることのできる実感としてわかりました。ネットを駆使しながら豊かな生活の提案や、大洲に住んでみたいけどどうしたらいいかわからない人の手助けになればと思っています。

そんな場所づくりとして私たちが借りている築100年の古民家をゲストハウスにする計画を作っています。それと同時にボランティアの受け入れも開始予定です。

協力隊の任期もあと1年を切り、本格的に定住できるような生業づくりを進めていくつもりです。

特に農業と造園を軸に、従来のような『モノ』としての価値だけでなく『コト』の価値も想像できればと思っています。例えばブルーベリーやイチジクは畑で食べると全く味が違います。それはしっかり完熟しているからで、現地にきた人にしか味わえません。また現地で美味しい果物があれば、その場で苗を買って家に帰って植えられる仕組みがあったらどうでしょうか。野菜もそうです。きっと生活が華やぐのではないのでしょうか？私はそんな提案をしていきたいと思っています。

01

地元のお豆腐と旬の野菜

02

野草のアレンジ

協力隊になり2年が経ち、まさか自分が国際結婚するとは大洲にやってきたころは頭の片隅にもありませんでしたし、5年前の私も、今までに何も接点がなかった愛媛県の大洲で、まさかこうなっているとは夢にも思っていなかったです。

改めて大洲は多様な魅力がある地域だと感じています。特に中山間地と呼ばれる地域はそれぞれの特徴が色濃く残っていて、他にはない物ばかり。そんな魅力に惹かれ柳沢地域の田処に住みたいと決めました。その時期の旬があり、作業があり、文化がある。地域に住む人には当たり前のことだけれども、私も含め他所から来た人にとっては心動かされるものがたくさんあると思っています。

ただ、そのまま現地の感覚で伝えてもわかりにくいことが多いようにも思っています。私はそんな地域の魅力を伝えられるようになりたいと思っています。また、それが地域を守っていく方法の一つだとも考えています。



01



02

03 今後やっていきたいこと



ゲストハウス予定の母屋



地域の植物など多様性の維持恩恵のシェア



様々なアプローチで情報を発信していく

持続可能な農業

パーマカルチャーや自然栽培などの考え方を中心に、複合的な農業を目指していきたいと考えています

ゲストハウス

空家の解決策の一つとして、地域の魅力を発信する拠点としての活用を考え、任期終了後の開業を目指し準備を進めていきます

情報発信

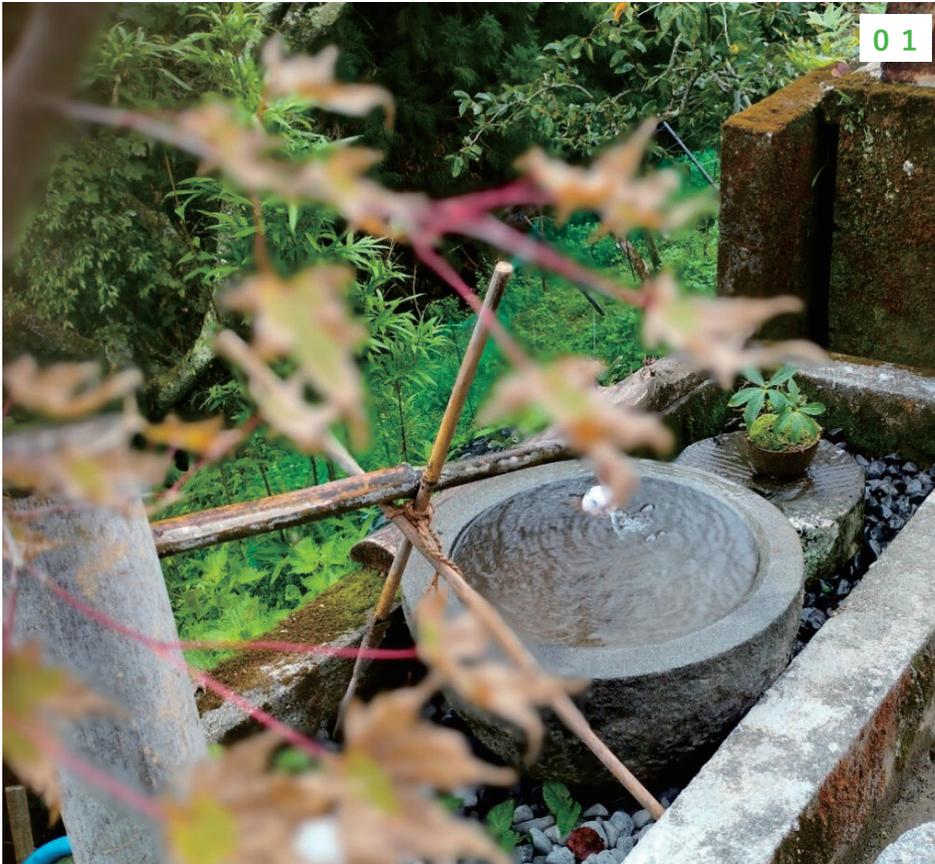
農作物の販売やゲストハウスの運営をするにあたり、何処で誰がどのような想いで作っているのかを伝える必要があると考えています

シードバンク

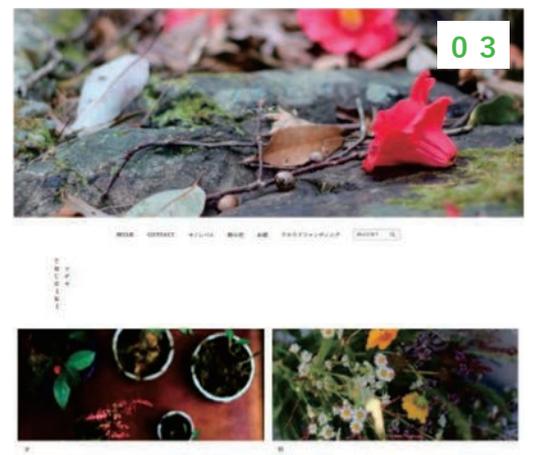
その土地にあった多様な植物の種をシェアできる場所づくりをしていければと思っています

環境整備

家の周辺の石積みの修復、室内のDIYも含め、今後ボランティアを集いながら整備していく予定です



01 倉庫に眠っていた石臼を使い、洗い場にて使用した水を植物を使って浄化できる仕組みに



02 持続可能な仕組みや文化を守っていけるように

03 サイトの作成並びに販売ができるように

04 退任後のビジョン



THUGIKI-ツギキ

大洲の豊かな自然が生んだ植生を生かした盆栽やお花、お庭の管理やデザインなど植物を使って生活を豊かにする提案をする。

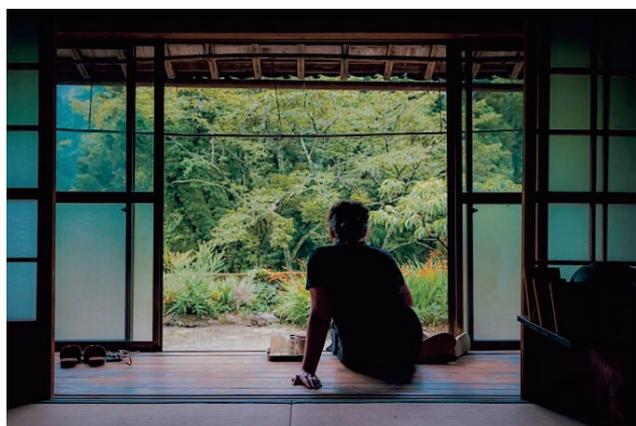


THUGIKI.OZU



FARM-農

私が海外で学んだパーマカルチャーの考え方を織り交ぜながら、生産するだけでなく、生活も豊かにする『農』としての価値を見出していければと思っています。



GUESTHOUSE-宿

築100年の古民家を宿に気軽に田舎暮らしや自分を見つめられる場所にしたいと思っています。



UKAI SENDO-船頭

日本三大鶺鴒の一つで唯一の合わせ鶺鴒を見ることができる大洲。移住者だからこそ伝えられることがあるのではと思っています。

04 退任後のビジョン

地域の人に向けて

私たちが自分らしい生活ができるよう色々とお世話になっている地域の人たちが希望が持てるように、そして柳沢が今後も持続していくための外貨を稼げる仕組みづくりや柳沢に興味を持ってもらうきっかけづくりができればと思っています。

移住に興味がある人に向けて

多くの方は「理想」の田舎暮らしと「現実」の田舎暮らしの差異を感じていると思います。移住する方も、移住先の地域の方々も、共に不幸にならないよう、その地域を知ってもらうためのゲストハウスやボランティアによって田舎のリアルを体験していただきたいと考えています。



大洲市地域おこし協力隊
EHIME



大洲市 協力隊
Instagram



大洲市 協力隊
Facebook



大洲市 協力隊
Homepage

◇ 連絡先 ◇

地域おこし協力隊（農業部門）

中村 光一 - Nakamura Kouichi -

E-mail : kouichi.nakamura@city.ozu.ehime.jp

地域おこし協力隊
農業部門 受入課

大洲市 農林水産部 農林振興課 農商工連携係（担当:白岩）

TEL : 0893-24-1727（課直通）

E-mail : nourinshinkouka@city.ozu.ehime.jp